

小山田小学校の廃校時期見直しの議論を求める請願

【請願要旨】

小山田小学校は、昭和27年（1952年）忠生第二小学校として開校し、今年度創立72年目を迎えます。小山田分校としての開校から数えると、111年の歴史があります。その間、多くの同校関係者の努力と地域住民の協力によって、よき伝統、よき校風が築かれ、脈々と受け継がれてきました。親子二代・三代と重なる方もあり、地域に根付いた学校として地域が学校に寄せる期待は極めて大きいものがあります。

町田市教育委員会が2021年5月に策定した「町田市新たな学校づくり推進計画」では、2031年度に小山田小学校と小山田南小学校の通学区域を統合し、小山田小学校を廃校とし小山田南小学校に統合する計画が示されています。しかし、小山田地域には、以下のような様々な特殊事情があります。

- 1 町田市は「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想（2016年3月）」を公表しており、新駅が小山田小学校から西へ約400mの位置に想定されています。このまちづくり構想の策定にあたっては、町田市からの声掛けで、当時の小山田小学校児童による140通、255件ものアイデアが活かされています。今後、構想が具体化していくことにより、地域の人口が増え、新たに小学校が必要となることが考えられます。
- 2 小山田小学校の通学区域は市街化調整区域を含んでおり、小山田南小学校の通学区域と統合すると町田市内で最も広いものとなります。このため多摩市に近い小山田地域北部から小山田南小学校へ通学する児童は、狭くて歩道も無く坂道の多い通学路を片道1時間近くかけて通学することとなります。スクールバスを運用するとしても、小山田小学校の通学区域は狭い道路が入り組み、効率的な運用が難しい状況です。諸事情による遅刻や早退への対応ができないことも大きな課題と考えます。
- 3 小山田小学校は、隣接する北側山林や鶴見川源流域、小山田緑地など北部丘陵の豊かな自然環境を活かし、地域住民が参加した独自の「小山田学習」を実施しています。廃校となれば、他の小学校では見られないこうした先進的で貴重な学習の機会が奪われることとなります。

町田市は地域ならではの特殊事情を考慮し、小規模校の大戸小学校（ゆくのき学園）の廃校時期を2040年度までに先延ばしするよう見直した経過があります。小山田地域の特殊事情を考慮し、同様に廃校時期の見直しをいただきますようお願い申し上げます。

【請願項目】

小山田小学校の廃校時期については、町田市が策定した「小田急多摩線延伸新駅を中心とした小山田周辺まちづくり構想（2016年3月）」や小山田地域で計画されている道路整備の進行状況、市と地元で進めるまちづくり等を考慮の上、2031年度という時期の見直しも視野に入れ、地域の将来を見通した判断が望まれます。小山田地域の「新たな学校づくり推進計画」については、環境変化を見通しながら、教育委員会だけでなく、長期的な視点で関係部署と地元での議論をすることを求めます。